



東京外国語大学

言語文化学部 言語文化学科

話題の講義ライブ **LIVE 2015**
5.18.Mon. at Fuchu 14:20~15:50

本日の講義

ポルトガル語圏の文学と文化 ブラジル文化入門

講義の流れ

ポルトガル語圏の国やブラジルの文学、スポーツ、行動様式、キリスト教や宗教、サンバ、カーニバルなど、毎回異なる文化事象をテーマに取り上げて講義を進める。

醍醐味

ポルトガル語圏の国ブラジルの文化形成の背景を踏まえたうえで、文化の成り立ちを理解できるようになる。



武田先生がにこやかに入室すると、リラックスした雰囲気の中で談笑していた20人ほどの学生が席に着いた。このクラスは専門課程に入った3年生向けの講義だ。サッカー観戦をしていると、プレイにお国柄が出ていておもしろいなど思ったことはないだろうか？ 例えば、ヨーロッパのサッカーはチームワークが基本、ブラジルは選手の個人技と即興性を重視といった点だ。「多くのブラジルの選手は不利な状況下で絶妙

なバランスを保ちつつ、腰をひねって相手に驚きと混乱を引き起こすサッカーのプレイスタイルを持っています。これは一般にブラジル人が政治の世界や社会全般で見せる遊泳術に通じ、「国民性」の特異な部分として意識されています」と武田先生は切り出した。言語が得意な学生が学ぶ東京外国語大学だからこそ、この講義の教材もポルトガル語で書かれたものが使用されている。

サッカーでわかるブラジルの国民性

日本のルールは世界で通用しない？ ブラジル人の処世術から知る 文化と国民性



ただちか
武田 千香先生

1991年、東京外国語大学外国語学研究所ロマンス系言語専攻（ポルトガル語学）修士課程修了。2002年、東京外国語大学外国語学部講師。2004年、東京外国語大学外国語学部助教授。2012年、同教授。2013年、東京外国語大学より博士（学術）学位授与。2015年、言語文化学部長。日本ポルトガル・ブラジル学会、日本ラテンアメリカ学会、日本文藝家協会所属。

今日のキーワード 「マリシア」と「ジェイチーニョ」

ポルトガル語で「マリシア」とは、「悪知恵、悪賢さ」（否定的）と「知恵、機知、機敏さ、要領の良さ」（肯定的）と両側面がある言葉だ。例えば、サッカーの試合で審判が見ていないのをいいことに、手でボールをゴールネットに押し込んでおいてまるでヘディングでゴールを決めたかのよう

に喜んでみせるのもマリシアの好例だ。「正々堂々と戦うことを美徳とする日本では、常識やルール、スポーツマニシッパから外れていると否定的だが、フットボールとしての発想の柔軟性、勝利につながる巧妙な問題解決方法を

模索しながらちやつかりハッピーになる技だ。通訳の仕事も数多く経験してきた先生も、ブラジル滞在中にジェイチーニョの光景を幾度となく目にしてきたそう。『正でもあり不正でもあり、曖昧でしかも一般的な行為。この力をブラジル人自身は才能だと誇りに思っています』

この後、講義では、『状況』つまり人間の『都合』と『必要性』以外にこの世界を支配する普遍的かつ優位なルールは存在しない」とする研究を紹介し、ジェイチーニョについての考察を続けた。

言語を通して学ぶことで広い視野を得られる

講義後半ではアンケートが配られた。19の質問に対して、それが「恩恵・親切」（○）か、「ジェイチーニョ」（△）か、「腐敗堕落」（×）か、自分の感覚で仕分ける内容だ。例えば、「悪いことをしても罰則を科さないように警察に話を通しておく」について、自分なりの評価を記入する。アンケート結果では、質問に

よつては日本人には受け入れがたいものでも、ブラジル人の感覚ではグレイゾーンに入ることも多いそう。東京外国語大学は多言語が飛び交い、日常的に異文化に触れられるグローバル・キャンパスといえる。異なる言語や文化を学ぶことにより、理解が深まり、さまざまな

する姿勢が身につく。それによつて得た新たな思考方法や多様な視点は、クリエイティブになり、新しい考え方や生き方ができていく。「言語を学ぶことで得た思考法や発想は、卒業し社会に出た後も必ず役に立つ、ぜひ活躍してほしい」と武田先生は笑顔で熱く語る。



学生の声

内田 一馬さん

言語文化学部（ポルトガル語）3年生
今まで知らなかった文化を広く学べるところが、外大の大きな魅力だと思います。日本文化の素晴らしさを再確認できたので、将来は日本文化や観光など日本の良さを世界に広めていくようなことをやっていきたいです。

石井 佐弥さん

言語文化学部（ポルトガル語）3年生
来年予定しているブラジル留学に向けて、少しでもブラジルを知っておきたいと受講しています。違いを知ることがとてもおもしろいです。他では学べない、外大でしかできない言語や文化が多く、とても魅力的です。



吉中 輝さん

言語文化学部（ポルトガル語）3年生
海外というよりも、言語学に興味があります。高校までと違って誰もやっていないこと、ここできできない専門言語が多く、とてもおもしろいです。偏差値や名前を決めず、自分が何をやりたいかをよく考えて大学選びをしたいと思っています。

東京外国語大学

http://www.tufs.ac.jp/
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 戦略支援室
TEL:042-330-5158

言語文化学部

国際社会学部

〔沿革・歴史〕

起源は江戸幕府により1857年に開校された番書調所。日本の近代教育の黎明期につくられ、紆余曲折を経て、現在、東京大学・一橋大学などになっていった明治時代の諸教育機関と共通の根をもつ。1869年英・仏語の2学科の「開成学校」（現、東京大学）、1873年東京外国語学校（5語学科）、1897年高等商業学校附属外国語学校、1899年東京外国語学校、1949年、新制大学として発足（12学科）。学部のほかに、博士課程を持つ大学院地域文化研究科、全国共同利用研究所であるアジア・アフリカ言語文化研究所、教育関係共同利用拠点である留学生日本語教育センターからなる大学へと発展。2000年府中市の現キャンパスに移転。2012年には学部改組が行われ、言語文化学部と国際社会学部という2つの学部が開設された。

イベント情報

●オープンキャンパス（学部進学説明会）

7月12日（日）、11月21日（土）

●体験授業（教員による、自らの専門分野について高校生向けのやさしくかみ砕いた授業）

6/15（月）東京、6/21（日）名古屋、6/28（日）札幌、7/5（日）福岡、8/19（水）東京、

8/21（金）東京、8/24（月）東京、8/25（火）東京、10/1（木）東京

（事前申込制、期限有）

●他にもキャンパス見学、出前授業、出前説明、大学進学説明会、高校教員説明会などあります。詳細はHPをご覧ください。

URL <http://www.tufs.ac.jp/admission/open-campus/>

※プログラムは変更になる可能性があります。変更がある場合はHP上でお知らせいたします。

取材担当者より
東京外国語大学、
こんな大学でした！

駅から徒歩5分、住宅街の中にある緑豊かな広々とした東京外国語大学のキャンパスには、27言語、世界71か国1地域からの留学生が学び、まるで人種のもつような大学でした。外語祭と呼ばれる学園祭は、まるで世界旅行をしているかのようだと好評。各言語を専攻する学生による屋台も多数出店し、珍しい文字や民族衣装に溢れ、毎年盛況だそうです。